

【実践報告】

「学校教育の体験活動（小）」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 佐伯育郎 准教授 長澤 希
講師 西村 豊

教職センター 特任講師 小川 雅史

1 はじめに

本授業は、1年次の「児童の理解」における学修を発展させる科目であり、3年次以降の「教育実習」の導入としても位置付けられる。本科目の目標は、「児童の理解」で学んだ知識・身に付けた技術を基に、小学校教育の実際を体験的に理解し、教育者としての愛情と使命感を高め、将来教員になる上での能力や適性を考え、課題を自覚するとともに、教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることである。具体的には、次のとおりである。体験活動の事前指導を通して、教育実習生として小学校の教育活動に参画する意識を高め、体験活動後の省察により、教員免許取得までに身に付けるべき知識や技能等について理解する。児童や教育環境等に対する観察や関わりを通して、小学校の児童の実態及び、実態に応じた教育活動の特色を理解する。大学での学びと体験活動とを結び付けることで、専門的な知識、理論及び技術等を小学校教育の場で実践するための基礎を身に付ける。

2 2023年度の授業概要とスケジュール

日時	授業回数	授業概要
4/12	1	前期オリエンテーション、ボランティア事前調査
4/19	2	SNS・個人情報、学校支援活動、実習校希望調査
4/26	3	体験活動の配属学年、体験活動の目的・目標、自己の目標、自己紹介文
5/10	4	自己紹介文の交流・助言、助言を受けて修正・提出
5/17	5	自己の目標の交流・助言、自己紹介文の添削について
5/24	6	学校支援活動、子どもとの接し方、自己紹介文、自己の目標の提出方法
6/ 7	7	授業観察・記録の方法、子どもとの接し方、観察記録・お礼状の書き方
6/14		安芸高田市立吉田・八千代・愛郷小学校での現地実習（3校時から放課後までの参加）
6/21	8	現地実習の振り返り、お礼状の分担、お礼状の下書き
6/28	9	お礼状の清書・幼小合同交流会の準備
7/19	10	幼児教育の体験活動との合同交流会
7/26	11	内諾説明会の補足、学校支援活動、前期の振り返り
10/ 4	12	後期オリエンテーション、ボランティア現状調査
10/11	13	ボランティア現状調査の報告、ボランティア活動状況報告会に向けて
11/ 8	14	現地実習について、ボランティア活動状況報告会①
11/22		広島市立祇園・緑井・八木小学校での現地実習（1校時から5校時までの参加）
12/ 6	15	現地実習の振り返り、お礼状の分担、お礼状の下書き

1/10	16	ボランティア活動状況報告会②
1/17	17	幼児教育の体験活動，学校教育の体験活動（中）との合同交流会
1/24	18	全体のまとめ・今後の実習に向けて，教育実習Ⅰ（小）ガイダンス

3 成果と課題

令和4年度は，前期1日（5校時からの参加）と後期1日（1校時から4校時までの参加）と，二日間の小学校での現地実習（観察・参加実習）を実施した。これまでの安芸高田市立の3小学校に加えて，広島市教育センターのご協力により広島市安佐南区の3小学校での現地実習を実施することができた。学生の新たな学びの場と機会を得ることができた。20時間のボランティア体験を受講生全員に課すことができた点も成果であった。ボランティア活動報告会も，昨年度より多く2回実施することができた。

令和5年度は，前期1日（3校時から放課後までの参加）と後期1日（1校時から5校時までの参加）と日数は変わらなかったが，新型コロナウイルス感染対策の緩和に伴い，実習校での滞在時間を増やすことができた。実習校によって異なるが，休憩時間などを通じて児童と交流する時間も令和4年度よりも確保することができた。前期末の「幼児教育の体験活動」受講生との交流会に加えて，後期末には「幼児教育の体験活動」受講生だけでなく「学校教育の体験活動（中・高）」受講生も参加して交流することで，幼・小・中高と校種をつなぐ学びの場が得られた。

課題としては，シラバスでは体験活動が40時間（合計五日間）となっているが，新型コロナウイルスが5類に移行し，感染対策が緩和されたものの，依然として五日間に満たない実施となった点が挙げられる。令和4年度では二日間の現地実習に加えて，当初は大学近隣の小学校において三日間の学校支援活動に参加する計画を立案していた。しかし，小学校の受入体制が十分ではなく，教員の負担も大きいことから小学校から学校支援活動を断られた経緯があった。令和5年度でも，この状況を改善することはできなかった。大学近隣の学校ですら実習・体験活動の受入が難しい現状があるため，提携校の開拓をさらに進めていかなければならない。年間を通じた実習の計画や内容等について，提携校との連携の中で継続的に検討していく必要がある。より充実した現地実習（体験活動）にして，授業を更に改善していく必要がある。



【前期における現地実習（観察・参加実習）の様子】



【後期における現地実習（観察・参加実習）の様子】